

2 技術注力領域紹介 Cloud 領域

NTT データがめざすクラウド領域の方向性 ～ Transform with Cloud ～

NTT データでは、当社のグローバル全体のクラウドビジネスの拡大のため、戦略的な取り組みを行っている。DX 推進と人材不足という社会課題をハイブリッドクラウドのマネージドサービスで解消するために整備を進めている技術オファリング Digital Hybrid Cloud (以下、DHC) について紹介する。

なぜいまハイブリッドクラウドなのか？

顧客の DX やビジネスの業際連携が進むことで、クラウドの使い分けが多様化する傾向にある。2025 年までにクラウド利用の割合はオンプレミス / プライベートは 30%、パブリックは 40%、エッジは 30% で推移し、エッジとパブリックの拡大により処理の分散化が進む。一方で、オンプレ / プライベートはデータ保護などの個別要件で一定数残ると予想される(当社調べ)。そのため、高度なハイブリッドクラウドのアーキテクチャーへの対応の重要度が増している。

こうした変化に追随するために顧客は複雑多様化したクラウドを使いこなし、運用管理していくことを余

儀なくされるが、人手と技術力不足が大きな壁となる。例えば、毎年 2,000 件近い更新を行うクラウドもあり、非機能面の維持に必要な専門人材の確保は容易ではない。

NTT データがめざす方向性

NTT データは、DHC の提供で、企画から開発・運用まで End to End でカバーする(図 1)。

当社の全世界約 1 万人のクラウド技術者がこれをサポートする。加えて、当社の強みであるミッションクリティカル領域での対応力を活かして、繰り返し活用可能な開発テンプレートなどをアセット化することで品質担保とアジリティ向上を両立する。例えば、Architecture Bank



株式会社 NTT データ
技術革新統括本部
システム技術本部

クラウド技術部長 津村 秀明氏

盤を立ち上げることができる。

最終的には当社のクラウドサービス全体にアセットを組み込むことで、「より高度で人手がいらない」マネージドサービスの実現をめざす。

NTT データの提供価値

顧客は複雑多様化するクラウドの開発・運用に力を割くことなく、コアビジネスに注力できる。また、当社がエッジからクラウドまで一貫した安心(高 SLA)、安全(高セキュリティ)、便利(高アジリティ)なビジネス実行基盤を提供することで顧客のビジネスを支えていく。NTT データは“つくる力”と“つなぐ力”の両輪で、今後も顧客の期待に応えていく。

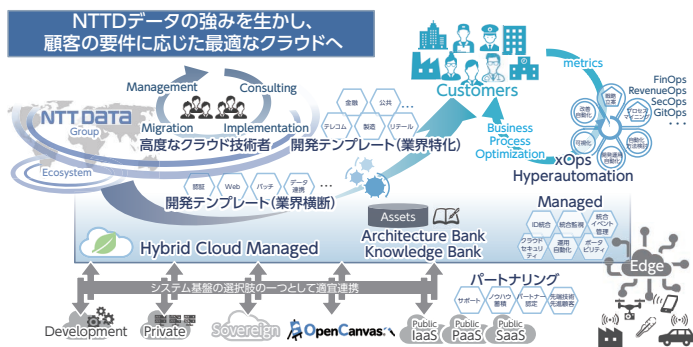


図 1 DHC (Digital Hybrid Cloud) の全体像

に蓄積された推奨アーキテクチャーと開発ドキュメントのセットをビジネスシナリオに応じて活用することで、迅速にビジネス実行基